

福島県内における まちづくり事例紹介

福島市（都市防災総合推進事業）

事業主体：福島市 事業期間：令和2年～令和6年

事業費：C=1,087百万円（国費C=483.3百万円）

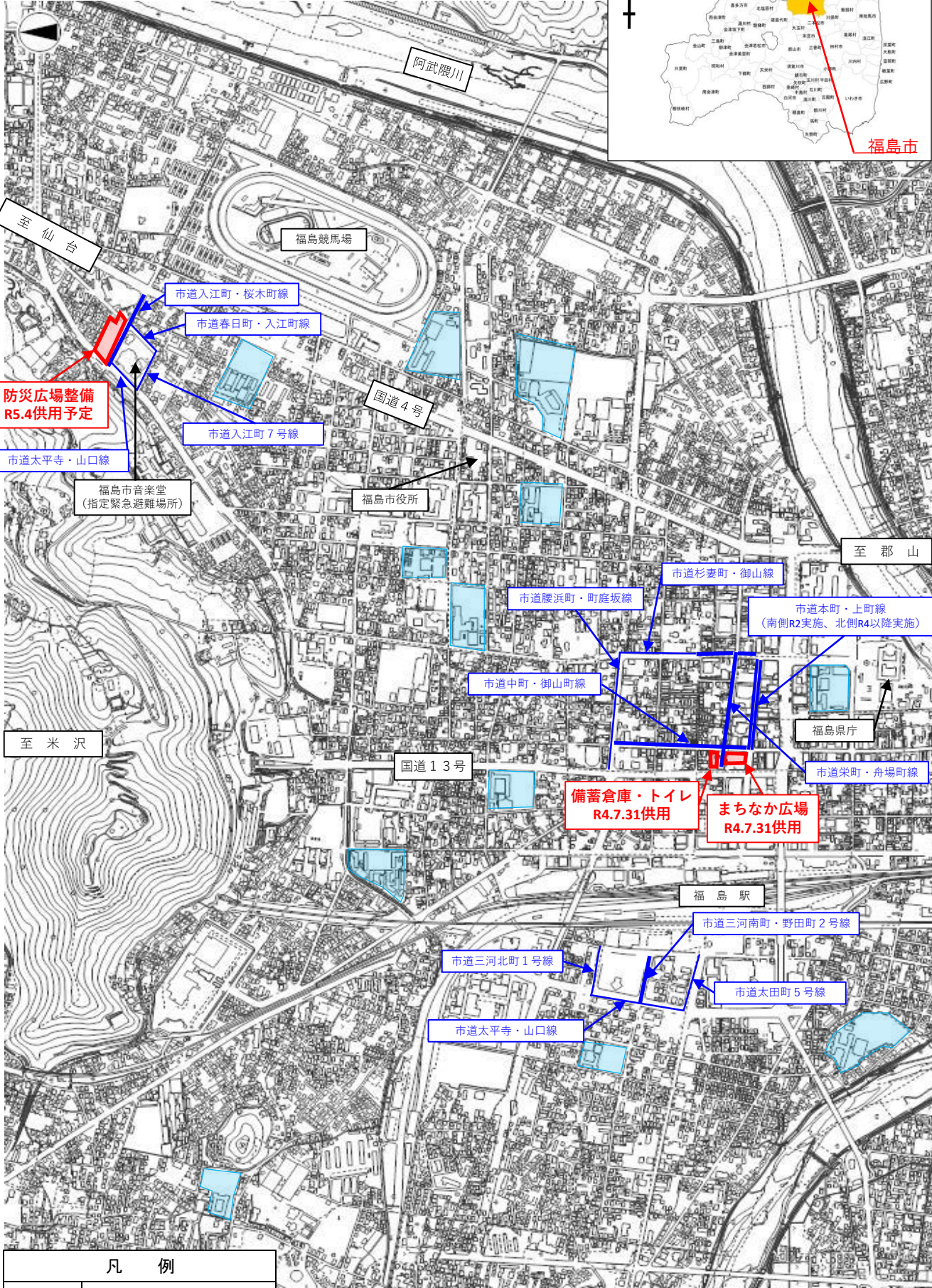
事業概要：福島市では、令和2年度から中央地区で、都市防災総合推進事業を進めております。中央地区は東北新幹線と阿武隈川の間に位置する中心市街地にあります。本地区内には小学校等が多数立地しており、地震、火災などの災害発生時に指定緊急避難場所や応急活動拠点としての役割が求められています。このため、地域防災計画で指定緊急避難場所に位置づけられている小学校周辺において、防災機能を有する公共広場（避難場所）を整備するとともに、避難路には、点字ブロックも整備することとしており、「市街地の防災性」の向上に取り組んでいます。



令和4年7月31日に、災害時には避難場所となる「まちなか広場」や「備蓄倉庫」、「トイレ」が供用を開始しました。供用開始当日には、オープニングセレモニーや駅前通りでイベントが開催されたところです。

また、福島市音楽堂の道路を挟んだ向かい側の駐車場では、防災広場整備工事が進行中であり、令和5年4月頃に供用予定です。

福島市担当者より工夫・苦労した点の一言

「避難場所」「街なか賑わい創出の場」という機能を両立するため、配置やデザインの決定に苦労しました。



凡 例	
	点字ブロック整備箇所
	小中学校



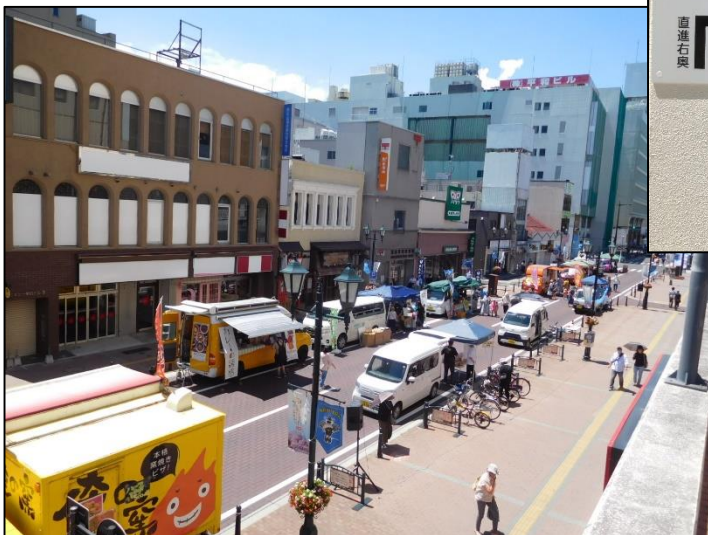
▼まちなか広場
(北側からの様子)

▲まちなか広場
(南側からの様子)

▼まちなか広場
(指定緊急避難場所に設置される看板)



▼まちなか広場オープニングセレモニーと同日に開催された「軽トラ市」の様子



▲右奥が備蓄倉庫、右手前がトイレ

TOPICS

佐藤彌右衛門氏（喜多方市）が「まちづくりアワード 功労者部門」で国土交通大臣表彰を受賞しました。

蔵のまち喜多方のシンボリックな建築物である「三十八間蔵」脇の空き地をイベントやまちなか観光の回遊拠点として活用するため、佐藤彌右衛門氏が所有する土地A=595.73㎡を福島県に寄付（ポケットパークとして喜多方建設事務所が整備）し、喜多方市の観光振興に貢献した功績が国土交通省に認められ、その表彰式が6月14日に国土交通省庁舎内で開かれました。齋藤鉄夫国土交通大臣より、表彰状が手渡されました。



編集後記

福島市のまちなか広場は、今後様々なイベントで活用される予定です。通常時は福島市民になじみのある広場となることを願っております。

土木部メールマガジン登録随時受付中!!!

土木部メールマガジンでは、土木部の取組みや情報を定期的に発信しています。最新号のメール配信を希望の方は、下記により登録をお願いします。

これまでに配信したメールマガジンについては、土木企画課のホームページ (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41025a/doboku-mm.html>) からご覧いただけます。

メールマガジン(無料)の配信をご希望される方は

【土木部メールマガ希望または、解除】
をお書きのうえ下記アドレスまで
メール送信して下さい。



doboku_mailmagazine@pref.fukushima.lg.jp
土木企画課(システム担当) 024-521-7886

【まちづくり瓦版 発行元】
福島県土木部まちづくり推進課

TEL 024-521-7511

FAX 024-521-7956

e-mail machizukuri@pref.fukushima.lg.jp

URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>